

Ⅲ 会報第2号にむけて

新会長のもとで充実した第2号が年内にも発行されることと思います。

会員の“権利”として、どなたでも投稿をしていただきたく存じます。例えばつぎのような記事を：1. 水草についての随想 2. 水草の伝説・伝承・民話・文芸など 3. 水草の利用（衣食住・医療・園芸・生け花など） 4. 水草と環境・生態系（水系保全，自然保護など） 5. 教材としての水草 6. 調査・研究の報告 7. その他，水草についての諸情報・資料などなんでも。

Ⅳ 水草との因縁（原田市太郎）

昭和15年、東大での卒業研究のときから。ヘロビエ（沼生群）という単子葉水草が材料（ヒルムシロ科，オモダカ科，トチカガミ科など約7科）。指導教授篠遠先生（当会員）は昭和のはじめにクロモの性染色体を研究されました。

私はそれまで、ヘロビエといってもカナダモぐらいしか知りませんでした。京大の三木博士のところへ行って、どこにどんな水草が生えているかを教えていただいて採集を始めました。

ことのついでに、ヘロビエ以外の水草も採集しては染色体や花粉のことを調査しました。

研究の目的は染色体のことであり、水草は単なる材料のつもり。水草の染色体に何か面白いことはないか；染色体からみたヘロビエの分類系の考察。これらのことは、別に書きます。

いわゆる水媒花の花粉形成と受粉にも興味をもちました。海生の水草（いわゆる“海草”〔海藻ではない〕；すべてヘロビエに分属されている）の調査につとめました。いつか会報に書かせていただきます。

とにかく大分前から、水草の細胞学のことよりも水草全般について“なんでも”興味をもつ“水草野郎”になりつつあります。

Ⅴ 食にかかわりある水草（原田市太郎）

大滝氏の日本水生植物図鑑を頁を繰って追いますと、なんらかの意味で食にひっきり有る水草は次の如し：アサザ[☆]，セリ[☆]，ヒシ[☆]，ワサビ[☆]，オランダガラシ[☆]，バイカモ[☆]，ジュンサイ[☆]，コウホネ[☆]，オニバス[☆]，ハズ[☆]，キショウブ[☆]，コナギ[☆]，ミズアオイ[☆]，ミジンコウキクサ[☆]，クログワイ[☆]，アシ[☆]，マコモ[☆]，オモダカ（クワイ[☆]），アマモ[○]，シバナ[○]，ガマ[○]，ヒメガマ[○]，ミズワラビ[○]。氏の解説は大変面白く有益；博識ぶりにおどろきます。

☆印をつけたものは、どなたもご存知のところ。私は、イネは水草であると考えています。若下の蛇足を：—

(1) アマモ（アジモ[○]）の地下茎は海底の砂地を浅くほ伏して走ってまして、節から葉が海中へ出ています。その節と葉の基部は黄白色で、そこが甘い味がする。

昭和17年に朝鮮南部へ行ったとき、漁村でアマモのその部分を切り取って束にしたのが路傍で

売られてました。子供がお菓子がわりに買ってました。

戦中戦後の糖分欠乏のころ、愛知県のある水産試験場では、アマモのその部分から糖を煮出して実験の培地用の糖として使うことを試してみたとのこと。

私は名人に居たとき、アマモの甘味成分をしらべようと思い、抽出をやってみました。どんな糖であるかの同定には失敗（おおよその見当だけ）。今の進んだ手法でやれば、かなりた易く判る筈。どなたか、やって下さいませんか。

大滝氏の図鑑に「果実は食糧資源にもなる」とあります。近年、アマモの果実（コメ粒ほどの大きさ）の食糧資源化のことがとりあげられ、有力な国際研究組織が動き出しました。コメ・ムギに代わる次の時代の穀類、というキャッチフレーズです。（いずれ詳しく紹介したい）。

(2) ヒ シ。中国では近年、食糧用にヒシの品種改良（育種）が進んでいる由。

(3) クログワイ。ふつうのクワイ（オモダカ科）とよく混同されますが、クログワイはカヤリグサ科。私の生まれた越後では、以前は八百屋で普通に売ってました。さくさくと歯切れのよいもので、私はクワイよりもこの方が好きです。

人間およそ、いざとなれば毒のあるもの以外はなんでも食べる。古今東西、想いもかけぬ水草を食品に利用してきたことでしょう。皆さまの体験や見聞を、おしらせ下さらば幸い。

VI 水草の単行本（日本）（原田市太郎）

手もとにあるものを、とりあえずリストしました。お気づきの単行本、おしらせ下されたく存じます。

（陸水学、湖沼学、生態学の本には多少なりとも水草の項目がありますが、それらの本は割愛。）
（リストは発行年次順。絶版、定価変動のものあり。）（次回には、外国の単行本を紹介する予定。）

学習図鑑シリーズ(5) 1951 淡水の生物図典 日本出版社 ￥280

保育社のポケット図鑑(12) 1953 池や川の生物 保育社 ￥150

牧野富太郎鑑修 1961 (第5版) 海藻と水草(原色図鑑ライブラリー30) 北隆館
￥160

近藤龍雄 1963 水草園芸 加島書店 ￥450

和泉克雄 1968 水草のすべて 緑書房 ￥1500

立花吉茂 1971 水草 栽培と楽しみ方 文研出版【定価不明】

生嶋 功 1972 水界植物群落の物質生産Ⅰ水生植物(生態学講座7) 共立出版 ￥1100

堀田 満 1973 水辺の植物(カラー自然ガイド6) 保育社 ￥280

大滝末男 1978 (第3版) 水草の観察と研究 ニューサイエンス社 ￥900

浜島繁隆 1979 池沼植物の生態と観察 ニューサイエンス社 ￥650

大滝末男 1980 日本水生植物図鑑 北隆館 ￥8000

VII 水草研究の開拓者、三木茂博士のこと（原田市太郎）

故三木博士は盛岡高農から京大理学部へ入れ、故郡場教授の植物生理学講座で生態学・生理